

1. 母子手帳より見た難聴児早期発見の現状

田中 美郷*

平成2年10月より三歳児健康診査に聴覚検査が取り入れられた。聴覚障害児の検出が行政的基盤に立つ保健所業務に位置づけられたことは高く評価される。3歳児に限らず、難聴児早期発見に関して保健所の果たすべき役割は大きい。しかし現実には満足できる状態にない。私はこの理由を知るために、最近2年間に私の外来を訪れた難聴乳幼児について、母子手帳にある問診項目、難聴の程度、受診までの経緯について調べ、若干の知見を得たので報告する。

1. 症 例

平成3年9月より5年5月までの間に私の外来を訪れた難聴乳幼児のうち母子手帳を持参した56名である。表1に男女別受診時年齢を示す。

表1 受診時年齢(歳)

歳	0	1	2	3	4	5	計
男	8	10	9	4		1	32
女	2	8	8	5		1	24
計	10	18	17	9	0	2	56

2. 検査方法

耳鼻科外来診察に加えて、精神発達検査、CORテスト、遊戯聴力検査またはピープショウテスト、必要に応じて脳幹反応(ABR)聴力検査、tympanometryを行った。

3. 成 績

56名すべて両側感音難聴であった。表2に良聴耳の難聴の程度(4分法平均)と受診時年齢の関係を示した。

これを見ると従来諸家によって指摘されてきた如く、難聴が重いほど受診年齢が低い傾向がある。しかし80dB以上の高度難聴でも2歳過ぎて訪れたものが18例(32%)あった。表3は母子手帳にある問診項目のうち、聴覚と関係ある項目(1は1ヵ月児, 2は3~4ヵ月児, 3は9ヵ月児, 4と5は1歳0ヵ月児, 6~9は1歳6ヵ月児, 10は2歳児, 11は3歳児)に対する返答中「いいえ」ないし「判然としない(カッコ内数)」とあったものの数である。これを見ると1歳前では親は聴力について余り問題を感じていなかったようである。これに対し1歳6ヵ月時には聴覚に言語発達の問題も含めて、難聴を疑わせる側面がかなり顕著に出てきている。中でも注目されるのは、「後ろから呼んでも反

表2 難聴の程度と受診時年齢の関係

歳	0	1	2	3	4	5	計
>90dB	9	13	12	5			39
-81		2	1				3
-71	1	1		1		1	4
-61		2	3				5
-51			1	3		1	5
計	10	18	17	9	0	2	56

*帝京大学医学部耳鼻咽喉科

表3 母子手帳問診項目と難聴の程度との関係

チェック項目	平均聴力レベル						計
	>90dB	90-81	80-71	70-61	60-51	50>	
1. 泣いているときに声をかけると泣きやみますか………いいえ	3(2)		1				3(2)
2. 見えない方向から声をかけるとそちらへ顔を向けますか………いいえ	10(1)	1	1				12(1)
3. 外のいろいろな音に反応を示しますか………いいえ	9			1			10
4. テレビやレコードなどの音楽に合わせてからだを動かしますか………いいえ	9	1	1	1	1		13
5. おとなのいう簡単なことば(おいで, ちょうだいなど)がわかりますか………いいえ	8	2	1				11
6. ことばをいくつか話しますか………いいえ	17	2	2	3	2		26
7. 絵本をみて動物や物の名前をきくとそれをさしますか………いいえ	19	2	2	2	4(1)		29(1)
8. おとなの簡単な命令がわかりますか………いいえ	9(1)						9(1)
9. 後ろから呼んだとき振り向きますか………いいえ	15	1	1	(1)			17(1)
10. 2語文(ワンワキタ, マンマチョウダイ)などを言いますか………いいえ	9(1)	1	2	1	2		15(1)
11. 耳の聞こえが悪いように思ったことがありますか………はい	3				3		6

応するか」と言う純粋に聴覚だけに頼る項目よりも、言語発達に関する項目で「いいえ」が多いことで、このことは1歳6ヵ月児健診においては難聴検出のためには、言語発達にも重点を置いてチェックすべきことを示唆している。表4は受診までの経緯をまとめたものである。多くは親自身がわが子を心配して受診したが、一方母子手帳で表3に見る如き問題が露呈していたにもかかわらず、健康診査の場で見過ごされていたのは重視される必要がある。図1は56名について、最初に子供の異常に気付いていた人から受診までの経緯を示したものである。産は産科医、保は保健所、病は病院、斜線を重ねた所

表4 来院経緯

保健所より精密検査を依頼されて来たもの	8例
親が気付いて来院	19
保健所で見過ごされたもの(うち1例はスピーチクリニックでも見過ごされていた)	21
言語発達の遅れを主訴に来院(うち2例は親が母子手帳未活用)	6
産科医に精密検査をすすめられて来院	1
耳鼻科医より紹介	1
合 計	56

は難聴を見過ごした機関を示す。これを見ると1歳6ヵ月児健診での見過ごしが非常に多いという感を強くする。

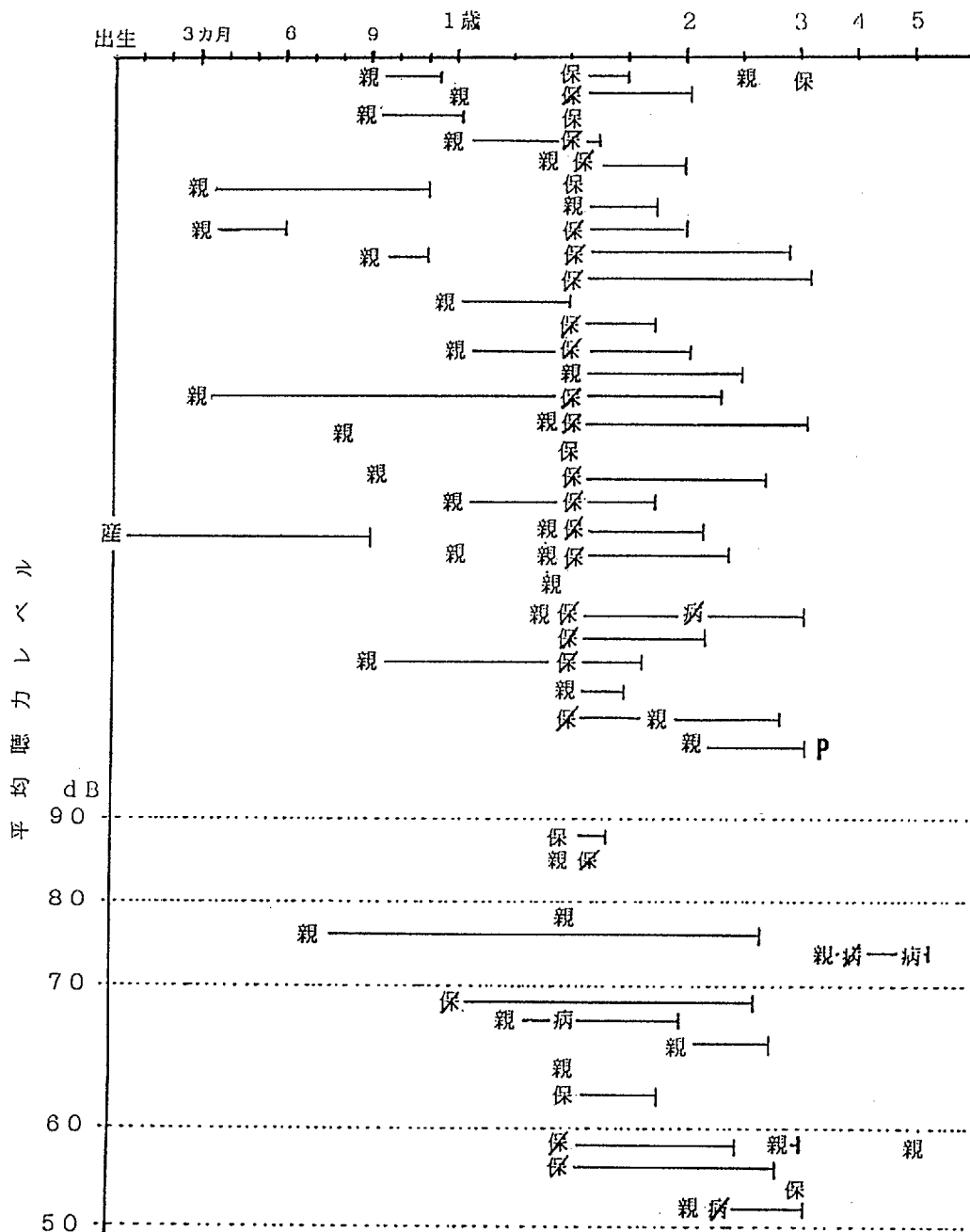


図1 最初の気付いた人から受診までの経緯

次に代表的症例を掲げる。

〈症例〉 R. Nishimura (No. 528-402-3), 女児

初診時年齢：2歳3ヵ月

主 訴：難聴

診 断：高度難聴

家族歴：1歳を過ぎて言葉が遅いので気になっていた。1歳3ヵ月時I市日赤病院に検査を

申し込んだが夫の家族にまだ早いと反対された。1歳6ヵ月児健診で難聴を心配して申し出たが(表5参照), 心理相談員に様子を見よといわれた。母子手帳のチェックは受けなかった。2歳0ヵ月, I市保健センターへ申し出たところK市児童福祉センターへ紹介され, ABRで高度難聴と診断された。表5, 6および

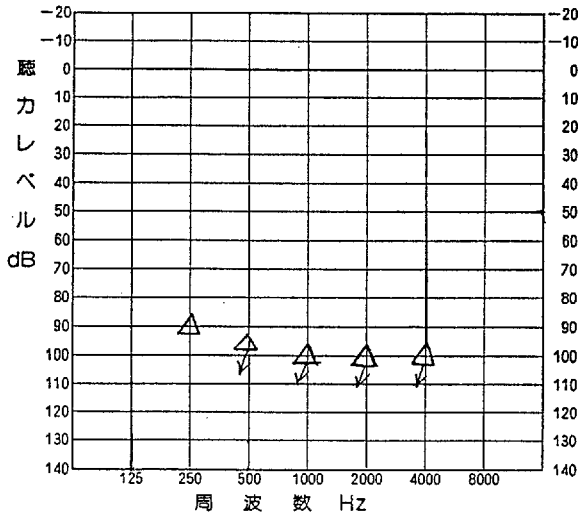


図2 R.N. 児の聴力

図2は本児の母子手帳のコピーと2歳3ヵ月時のオーディオグラムである。

コメント：本例には100dB以上の高度難聴がある。まず親が子の異常を感じたが家族の反対で検査を受けるまでにはいたらなかった。母子手帳を見ると1歳6ヵ月時(表5)には言葉の遅れ、絵本の絵の名が指せない、簡単な命令が解らない、後ろから呼んで振り向かない、など難聴を疑うに十分な情報が揃っており、加えて親は明らかに難聴を心配していたにもかかわらず、健診担当者や心理相談員は見送ってしまった。2歳の時点では言語発達の遅れが明らかである(表6)。

4. 考 察

難聴児の早期発見、早期対策の重要性については今更論を待たない。早期診断や早期治療教育については近年著しい進歩を見せた^{1~4)}が、早期検出についても充実が待たれているところである。それだけに昨年度のわれわれの班研究で、三歳児健診における聴覚検査法の確立を見たことは評価に耐える成果といえるであろう。

表5 R.N. 児の母子手帳より

保護者の記録【1歳6か月の頃】(年 月 日記録)

年 月 日で1歳6か月になりました

- ひとりです歩きますか。(はい) (歳 ヵ月頃から) いいえ
- 極端にまぶしがったり、目の動きがおかしいことはありませんか。 はい (いいえ)
- コップで水を飲むことができますか。(はい) (いいえ)
- 哺乳ビンを使って牛乳やジュースを飲んでますか。 はい (いいえ)
- ことばをいくつか話しますか。(はい) (ことばの数: (はい)) (いいえ)
- 絵本を見て動物や物の名前をきくと、それを指さしますか。はい(歳 ヵ月頃から) (いいえ)
- おとなの簡単な命令がわかりますか。 はい (いいえ)
- 後ろから呼んだとき振り向きますか。 はい (いいえ)
- 相手になって遊んでやると喜びますか。(はい) (いいえ)
- 好んでする遊びは ()
- お子さんのおむつをとる練習をしていますか。(はい) (いいえ)
- 最近、何か病気をしましたか。 はい () (いいえ)
- 育児の上で、心配なこと、記録として残したいこと、感想など自由に記入しましょう。

呼んでも振り向かないことがあるのに心配です

表6 R.N. の母子手帳より

保護者の記録【2歳の頃】(年 月 日記録)

年 月 日で2歳になりました。

- 走ることができますか。(はい) (いいえ)
- スプーンを使って自分で食べますか。(はい) (いいえ)
- クレヨンなどでなぐり書きをしますか。(はい) (いいえ)
- テレビや大人の身振りのまねをしますか。(はい) (いいえ)
- 2語文(ワンワンキタ、マンマチョウゲイ)などを言いますか。 はい (いいえ)
- 肉や繊維のある野菜を食べますか。(はい) (いいえ)
- 食後の歯の清潔に注意していますか。(はい) (いいえ)
- 最近、何か病気をしましたか。 はい () (いいえ)
- 育児の上で、心配なこと、記録として残したいこと、感想など自由に記入しましょう。

しかし「3歳」は必ずしも早期とはいえない。今後は3歳以下の乳幼児期における聴覚スクリーニング態勢の確立に向かって前進する必要がある。

従来の難聴児早期検出の研究は1960年代からある⁵⁾が、その対象は主として新生児および乳児にあった。とくに新生児は出産を契機に組織的に扱えるために、多くの関心が集中し、Downs法、Crib-O-Gramを始めとする自動的ないし半自動的聴覚検査法、脳幹反応(ABR)聴力検

査，誘発耳音響放射による聴力検査，胎内音による聴覚スクリーニング検査，舌打ち音による入眠時開眼反応検査，聴覚発達チェック，その他いろいろな方法が考案され報告されてきた。それぞれに有意義な面を有するが，しかし保健所を中心とした乳児健診や1歳6ヵ月児健診のような場で広く活用できて，成果を揚げ得るような方法は未だ確立されていない。わが国においては，このような場こそ難聴児早期検出の最良の機会と考えられるだけに，これを意識した聴覚検査法の開発が望まれる。

ところで，わが国における難聴児早期発見の現状を展望すると⁵⁾，親が重要な役割をはたしてきた。この傾向は表4にも見られ，上掲の症例もその1例である。これは，難聴児の早期発見・早期治療教育の重要性を説いた社会教育の成果とみたいが，しかし今回の調査では，折角親が早期に難聴に気付いても，それを受けとめて適切に措置すべき立場にある保健所が見過ごしているという実態が明らかになった(症例もその好例)。この知見は，現状でも母子手帳を注意深くチェックすれば，難聴児の早期検出の成果はかなり揚げ得ることを示唆している。それだけに，健診に直接携わる関係者に対する教育の徹底の必要性が叫ばれる。

5. 結 語

平成3年9月から5年5月までの間に私の外来を訪れた難聴乳幼児のうち，母子手帳を持参した56名について，アンケート項目にたいする反応と難聴の程度との関係を調べた。その結果，現状においても母子手帳を注意深くチェックするだけで難聴児の早期検出の成果をかなり揚げ得ることがわかった。これに基づいて若干の提案を行った。

文 献

- 1) 鈴木篤郎，田中美郷：幼児難聴，医歯薬出版，1979
- 2) 中野善達編著：聴覚障害児の早期教育，福村出版，1991
- 3) 森 寿子：重度聴覚障害児のスピーチの獲得—9歳の壁打破 聴能訓練法からの挑戦，にゅーろん社，1992
- 4) 田中美郷：難聴幼児指導の手引き，平成2～4年度厚生省心身障害研究「治療教育の開発と統合化に関する研究(主任研究者：高橋彰彦)」，1993
- 5) 田中美郷：難聴児早期発見・診断と治療教育—現状と今後の課題，日本医事新報3375号，11-16，1988



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



平成 2 年 10 月より三歳児健康診査に聴覚検査が取り入れられた。聴覚障害児の検出が行政的基盤に立つ保健所業務に位置づけられたことは高く評価される。3 歳児に限らず、難聴児早期発見に関して保健所の果たすべき役割は大きい。しかし現実には満足できる状態にない。私はこの理由を知るために、最近 2 年間に私の外来を訪れた難聴乳幼児について、母子手帳にある問診項目、難聴の程度、受診までの経緯について調べ、若干の知見を得たので報告する。